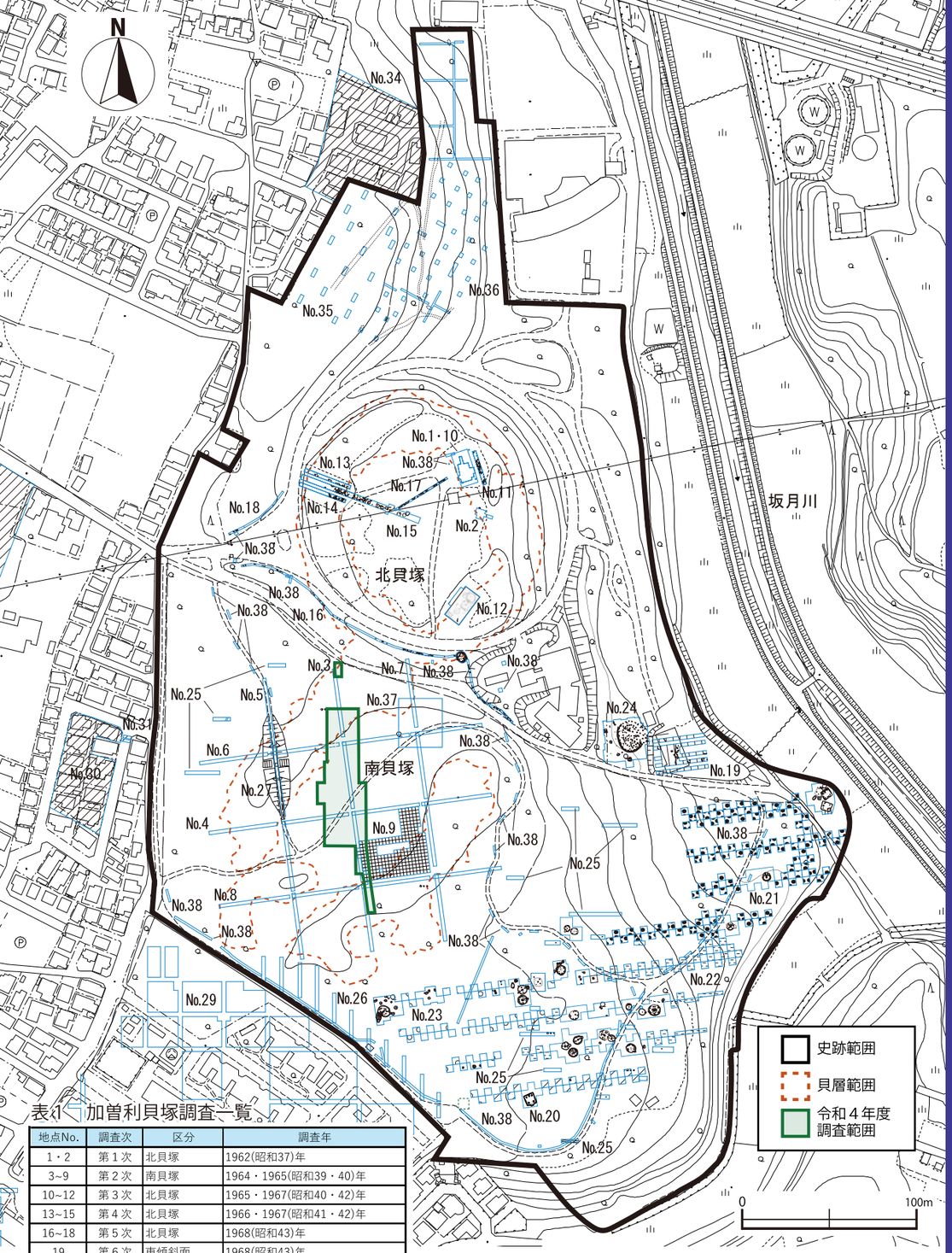

図３　調査地点位置図　（地点No.32・33は範囲外）

表１　加曽利貝塚調査一覧

地点No.	調査次	区分	調査年
1・2	第１次	北貝塚	1962(昭和37)年
3~9	第２次	南貝塚	1964・1965(昭和39・40)年
10~12	第３次	北貝塚	1965・1967(昭和40・42)年
13~15	第４次	北貝塚	1966・1967(昭和41・42)年
16~18	第５次	北貝塚	1968(昭和43)年
19	第６次	東傾斜面	1968(昭和43)年
20~23	第７次	東傾斜面	1970～1973(昭和45～48)年
24	第８次	東傾斜面	1973・1974(昭和48・49)年
25	第９次	南貝塚	1986～1988(昭和61～63)年
		東傾斜面	
26~28	第10次	南外縁部	1989・1990(平成元・2)年
		南貝塚	
		東傾斜面	
29	第11次	南外縁部	1984(昭和59)年
30~33	第12次	西外縁部	1977・1978・1980・1989
			(昭和52・53・55・平成元)年
34~36	第13次	北外縁部	1983・2013・2014
			(昭和58・平成25・26)年
37	第14次	南貝塚	2017～2019(平成29～令和元)年
38	第15次	南外縁部ほか	2019・2020(令和元・2)年

≪耳より情報≫
これまでの発掘調査の経過を記録した調査日誌や過去の現地説明会資料を見たい方は、こちらのＱＲコードから見ることができます。

特別史跡　加曽利貝塚

発行者　千葉市教育委員会
生涯学習部　文化財課
発行日　令和４年11月26日

特別史跡　加曽利貝塚
令和４年度　発掘調査現地説明会

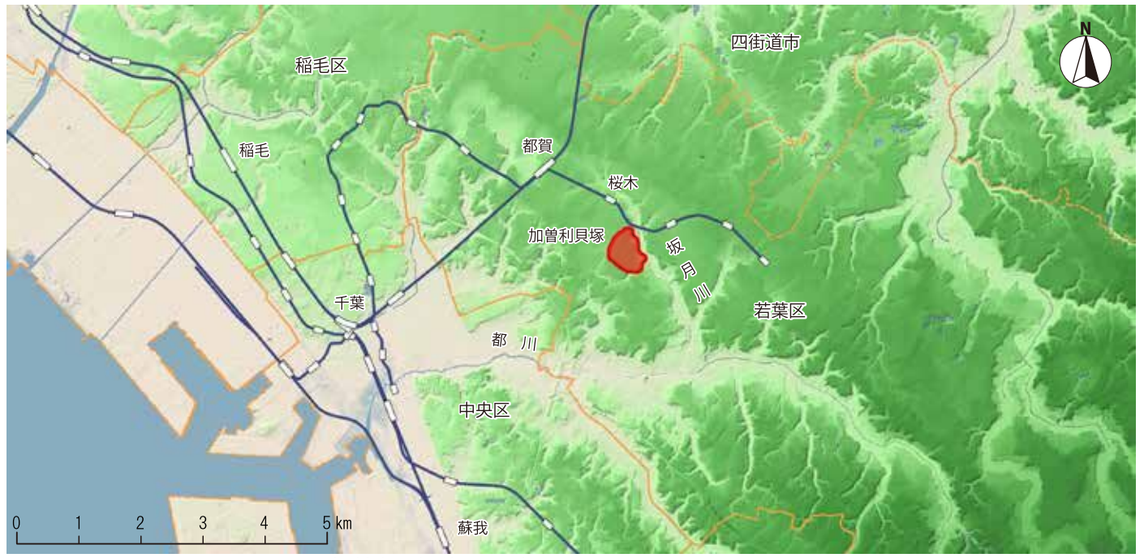

図１　加曽利貝塚位置図（国土地理院　基盤地図情報より作成）

今年度の調査の目的

- 昭和 39 年に発掘調査された調査区（トレンチ）の再発掘
- 貝塚の中央部の窪地の解明
- 遺構（住居跡等）と貝層の関係把握

所 在 地：千葉市若葉区桜木２丁目 154 番１他
調査期間：令和４年７月 12 日～ 11 月 26 日
調査機関：千葉市埋蔵文化財調査センター
調査面積：1,924 ㎡

写真１ 作業風景

発見された遺構と遺物

遺構：竪穴住居跡〔縄文時代後期〕、掘立柱建物跡、溝、土坑、柱穴、貝層〔後期〕
遺物：縄文土器〔中期・後期・晩期〕、土製品（土偶・耳飾）、石器（石鏃・石剣・石斧）、骨角歯牙貝製品（牙製鏃）、獣骨、魚骨、炭化種実

写真２ 石剣

写真３ 土偶

令和４年度発掘調査の概要

図２　調査区全体図

写真４ 調査区近景写真（北から）

写真手前の白い部分が縄文時代後期の貝層で、全体では馬蹄形に分布しています。写真中央が貝塚中央部の窪地です。昨年度の調査により、窪地の表層は縄文時代に削られていることがわかりました。

写真５ 縄文時代後期の柱穴群

馬蹄形に巡る貝層のすぐ内側には縄文時代後期の柱穴が多数見つかり、住居跡などがあったと推測されます。柱穴は円形ですが、中の土を後世まで保存するため、半円部分だけを掘りました。

写真６ 縄文時代後期の盛土

縄文時代後期の柱穴の上には縄文人が掘って捨てた土が積もり、盛土となっていました。貝塚には貝が捨てられていただけではなく、土も捨てられていたことがわかりました。

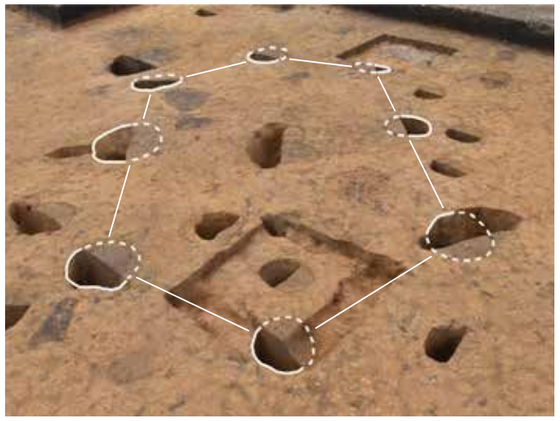

写真７ 縄文時代晩期の掘立柱建物跡

中央窪地の周りは中央部より少し高くなっていますが、そこに ８ 個の柱穴が規則的に並んでいることが確認されました。掘立柱建物跡と呼ばれているもので、細長い建物の跡と考えられます。